

# 【校長室便り】

No. 7

H30年4月28日(土) 土佐町小中学校 谷内宣夫

## 衝撃的な話

今子どもが危ない



正司昌子 しょうじまさこ レクタス教育研究所理事長。

1933年兵庫県生まれ。大阪音楽短期大学ピアノ科卒業後、ピアノ塾講師として活躍。後年、その経験を活かして幼児教育に取り組む。'87年、「0歳から小学校入学前まで」の子どもを対象として全人教育をめざし、幼児の学習教室「レクタス教育研究所」を開設。やる気のない子、学習能力に問題がある子などを独自のマンツーマン指導により飛躍的に伸ばすことでも定評がある。

主な著書に、『授乳時のケータイで子どもは壊れる』(ベストセラーズ)、『正司式ぐんぐん伸びる「かぞえるちから」プリント』『正司式ぐんぐん伸びる「かくちから」プリント』(以上、小学館)、『幼児の知力をぐんぐん伸ばす本』『「幸せな女の子」を育てる母親講座』『「たくましい男の子」を育てる母親講座』(以上、PHP研究所)などがある。

最近TVを見ていて気になることがある。それは、画面にテロップがやたらに多くなっているということです。

英語の会話なら日本語訳のテロップが流れるのは理解できます。しかし、日本語で会話をしている場面にもすべてテロップが出ています。どの番組を見てもそうでした。不思議でした。

そのとき、10年位前、神戸で研修会が行われ参加していた時に聞いた話を思い出しました。幼児教育で有名な正司昌子先生の話でした。(上記紹介)

なぜ、テロップがあふれるようになったのか？



「聴く力」が落ちているのです。発音が聞き取れないのです。

よって、「語彙」(ごい)の少ない子どもが増えてきていますし、支持が通らない子どもが増えているのです。反応が鈍いと  
きがあるのも、聴けないのですから当然です。



事態は深刻です。聴き慣れている言葉には反応します。

具体的には、「チョーむかつく」「早うせえ」「バカ」「うざい」「死ね」というような言葉です。日常的に聞きなれている言葉は聴き取れるのです。だからそういう言葉には敏感に反応します。自分でも使います。聴き取れるので自分に対して使われると鋭く反応し傷つきます。また、そういう言語環境であると、**微妙な感情を表現することもできず、なんでも「チョーむかつく」のです。「少し腹が立つけど我慢する」でなく、少しのことでも最大に「むかつく」という感情に達する子どもたちがあふれて短絡的な言動を繰り返すのではないのでしょうか。**学校(学級・部活動・その他)と、家庭が気をつけ、子どもを取り巻く言語環境を良くしていかなければならないのです。人をけなす言葉でなく、**ほめたり・感謝したり・温かい言葉をシャワーのように浴びせてやる**ことが子どもの言語環境を整えることにつながっています。自尊感情も高まります。コミュニケー

ション力も付きます。人間関係を上手に取ることができます。

これは大人(親・教師)が意識して行わなければならないことです。さらにショックなことも聞かされました。**学力低下は何歳から？**



正司先生は「0歳から始まっている!」と言いました。原因は母親にあるそうです。それはスマホが大きな原因です。赤ちゃんを抱っこしても、メールやラインを打つ母親が増えています。抱っこしても目を合わせない。話しかけない。形だけの抱っこになっていて、赤ちゃんに話しかけたり笑わせたりするコミュニケーションの基本が抜け落ちているということでした。

そのため、学力・生活力の基礎となる言語能力が育てられていない。という内容の話でした。



本校にも反応が鈍い生徒がいます。教師が指示をしても、反応せず、しばらくたって「今何するの?」と聞いてきます。一人だけではありません、次々と「今何するの?」と同じ質問をしてきます。ではどうすればよいのか? 「聴く姿勢」から意識して整えることが大切です。人間聴こうとしていないことは聴こえない。ただの雑音となります(聞く耳を持たない)。だから、◎授業中はしゃべっている人に集中し、聞いたら(指示を受けたら)すぐに行動する事を習慣化すること。さらに、目と耳と口を使ったトレーニングが必要です。



◎英語の時間、ALTの先生の口の動きをよく見て、単語を発音しながら書き、意味を言いながら覚える。という勉強の仕方がとても有効です。



◎授業中先生の説明を、聞き逃さず素早くノートに書き込んでいく(ノートづくりにも、家庭学習にも役立つ)方法です。

本校では、「**自分の考えを持つ。人の話を聴き、自分の意見との違いや感想を語ったり、書いたりすることができる力**」を育成し、「**他者の意見から自分の思考を深めたり、高めたりしていける授業**」を目指しています。今後もこの実践を続け「学力」・「生活力」・「コミュニケーション力」を高め「生きて働く力」の育成に努めていきます。ご家庭でも「聴く」ということを意識した生活をお願いいたします。